

小呂野通信

令和3年11月号

〒041-0806

函館市美原5丁目31番10



2021.10.30 トトロの里 富原観光果樹園にて、小呂野の木より収穫(さて、一体何個獲れたでしょう!)

10月30日(土)、法人の交流事業として企画しましたトトロの里での「りんご収穫体験」を無事執り行うことができました。

これまで、交流事業の取り組みについては、ペンを握っての勉強会などがほとんどでしたが、今回は頭だけでなく、体を動かしながらの交流企画。「りんごのお尻にやさしく手を添えること」「空に向かってクイッと持ち上げること」「幼稚園の子ども達もわかってくれます!」と、果樹園の方から枝を傷めず収穫する方法を、優しく、厳しく(!)ご指導いただきながら、一つのりんごも残すことなく収穫することができました。

収穫場所への移動をスムーズに誘導ができなかったり、集合写真を撮っていたらなあ…との気づきが、終了後にありましたが、いつも応援して下さっている会員の皆さんの笑顔が、何よりの励みとなりました。

法人理念であります「よりよく生きること」を支援する」取り組みの数々は、みなさんの支えがあってこそである…ということ、改めて強く感じ、噛みしめる時となりました。

これからも先も、ブレずに、ひたむきに、広く福祉の向上に努めて参ります。



ご覧のとおり、雲一つない青空の下での収穫体験となりました!

お集まりいただいたみなさん、ありがとうございました!

今回は参加が叶わなかったみなさん、次回お会いできることを心待ちにしております!

NPO 法人小呂野

ゆあさ社会福祉士事務所

スタッフ一同

夏の終わりの セレモニー



※りんごの数 正解は859個！

果物つながりでもう一つ、皆さんにお伝えしたいお話があります。

それは、法人理事長が仕事と同じくらいに情熱を傾け、精神を研ぎ澄ませ取り組んだ『スイカ栽培』。

「雌花が咲いた！」「うっすらうぶ毛に覆われたツルの先にしま模様の実が！」と、喜んだのも束の間。その実がある日、真っ黒に変色し黒豆に化けるなど、超えた試練は数しれず…。その後、ヤシの寝床やスポンジマットを駆使し、害虫対策も抜かりなく。

努力は実を結び 夏の終わりころ、ずっしりと重い、様々な想いが詰まった立派なスイカー玉が収穫され、みんなで英気を養いました。粘り強く取り組むことの大切さを痛感させられた実りでした。

(来年はいかに…！)

本の紹介



【嫌われた監督】

言わずと知れた元中日監督、落合博満氏の話である。プロ野球において「勝つこと」は至上命題である。その「当たり前のこと」を成し遂げる為、また、プロフェッショナルとして「当たり前のこと」である仕事に対しての当然の対価を求めたため、落合氏は「嫌われた監督」になった。

しかし、選手をはじめ、スタッフからは絶対的な信頼を受けていたという事実もある。

そして、その事実は中日ドラゴンズのチームとしての絶対的な強さ、そして、選手の大きな成長へとつながった。

つまりは、プロフェッショナルとしての成功につながっているのである。

「当たり前のこと」を当たり前に主張することが、こうも嫌われることに繋がること、逆にそのことがこうも選手の大きな成長へと導くことが、真逆の出来事を伝えることで、指導者として、プロフェッショナルとしてどうあるべきかを深く考えさせられる本である。

プロフェッショナルの集団として、そしてプロフェッショナルな個を育てて行くには、媚びへつらいやまして付度など必要ない。

読み終えて、顔つきが変わってしまう本でもある。

嫌われた理事長 湯浅 弥



出版社 文藝春秋

おすすめ映画情報(今回はドラマのご紹介です👁)

現在、NHK 総合で日曜の午後 11 時から放送中の TV ドラマ『アンという少女』がお勧めです。

有名な小説『赤毛のアン』を基にした 3 シーズン計 27 話、1 回 1 時間のオリジナルドラマです。

私は Netflix 配信の本作にこの春どっぷりハマって一気に観しました。

内容は原作に従いつつ、虐待、ジェンダー、人種や少数民族差別、LGBT 等の社会問題を取り上げながら、アンが成長する物語です。

現在、シーズン 1、2 の 17 話まで進んでしまっていますが、11月28日からシーズン 3 全 10 話が始まります。

今からでも是非！

鑑一



法人小呂野

今後の取り組みについて

新型コロナウイルスの第一例目の感染者が報告されてから既に2年近くが経ち、昨今はマスク・手洗いなどが日常の一部となりました。

効果的な治療薬ができるまでは、リモートワークや時差出勤など、新しい生活様式を続けていくことになるかと思われます。

前回通信でもお伝えしていました、被後見人の方々をお見送りする合同慰霊祭について、引き続き、話し合いを進めています。

基本的な感染防止対策をさらに徹底し、再拡大防止に努め、実現させたい考えです。

また、法人の理念や取り組んでいることについて、“もっとわかりやすく”お伝えする必要性をスタッフ一同再認識し、ホームページリニューアルに向け、諸々着手しています。

成年後見事業や、教育事業など、保健・医療・福祉の増進や教育研鑽への取り組みは、年々拡大し、日々慌ただしく時間が過ぎていきます。

眉間にシワを寄せ、「時間がない時間がない！」と慌てふためいては、良い実践に繋がりっこありません。

15時頃、珈琲を淹れ一息つく頃、カタカタパソコンを入力するでなく、ほんのわずかな時間でも、「手を休める」ことの大切さを、サクラさんは繰り返しスタッフに伝えていきます。

時間もそうですが、モノについてももしっかり管理し大切にできるように、一人ひとり環境を整える力を培って、益々パワーUPしてほしい。と、わたしは思っています。 しま



11月中旬 八幡通りのイチヨウの木

珈琲を一杯

立冬を迎え、日夜寒さが身に染みるようになってきた今日この頃…。より一層、熱いコーヒーが美味しい季節となりました。

豊かな珈琲の香りと、深みのある苦みは、一息ついてリラックスするにはもってこいです。

古くから愛されてきた珈琲ですが、特に17-18世紀のイギリス市民にとっては、社会に影響を及ぼす大きな存在でもありました。

当時、「コーヒーハウス」と呼ばれる喫茶店が流行し、そこでは誰でも新聞が読めたり、身分を問わず政治談議など市民が交流を深める場として、また、世論を形成する要素として時の王にも注目されていたといえます。

皆で談笑する事が思考の活性化や活発な議論に繋がったのでしょうか。

張り詰めて緊張している時よりも、リラックスしている時の方が、案外、良い解決策やアイデアが浮かぶものです。

忙しい日こそ、コーヒー片手に雑談を楽しむ時間をとってはみませんか？

BY

すがわら



左記写真は、庭(と勝手に呼んでいる函館公園)でよく見かける地域猫。オス猫のまるです。

木製の柵をスタタッと走り、ふかふかの地面にシュタッと着地。お気に入りの椅子に座って大あくびした後は、耳をすませて、目をこらして周囲をじっくり観察。

足を運ぶこと、自分の目でよく見て、聴いて、観察するという事は、私たちの日頃の実践に精通していると感じます。「頭切り替えろよ!」とまるが言ってる気がした、ある日の散歩道での出来事でした。

こにし



〒041-0806 函館市美原5丁目31番10号

TEL 0138-83-8471

FAX 0138-83-8472

MAIL simasakura1@gmail.com

特定非営利活動法人 小呂野

ゆあさ社会福祉士事務所 湯浅 弥

湯浅 留美

高橋 鑑一

小西 真帆

菅原 仁哉

湯浅 しま



BLOG

執筆中です!